

## 住宅内事故とは

住宅内事故とは、突然の発症により動けなくなる、敷居の段差や家電の電気コードにつまずいて転倒する、浴室で急な温度変化により倒れたりすることで、自分ではどうすることもできず、人の助けを必要とする事故のことをいいます。これらの事故は、65歳以上の高齢者の方に多く発生しています。

### 【実際にあった事例1】(被救助者：60代男性 脱水 入院)

宅配弁当のスタッフが配達に訪問したところ、前日の弁当が手付かずのまま残っていた。他にも回覧板や新聞がポストに挟まっていたため、扉をたたいて呼びかけるとわずかな声が聞こえてきたため119番通報。ベランダからセーフティーネット・レスキュー隊が室内に入り病気のため動けなくなっていた男性を救出、病院へ搬送した。

### 【実際にあった事例2】(被救助者：80代女性 腰痛・認知症 入院)

ヘルパーからの通報により出場。先着STRが玄関ドアのチェーンロックを切断し室内進入し、居室内で倒れている女性を救出。本事案の発生地域は、先着救助隊の平均到着時間が7.2分要していた地域であるが、STRを配置したことで3.5分に短縮された。

## 効果の検証

STRが発隊するまで、災害現場に最初に到着する救助隊の到着時間が大阪市内の平均が3.6分、外縁部の地域で最大で7.0分かかっていました。

しかし、STRの運用を開始したことで、グラフの分布で大きく左右に広がっていたものが、左寄りにまとまってきたことがわかります。

結果として、大阪市内の住宅内事故の救助事案における救助隊の到着平均時間が3.3分と18秒短縮することができ、外縁部の地域で4.1分の短縮が図られています。

この結果を踏まえ、令和元年10月には佃、西淡路、平林、長吉の4隊をSTRとして指定し、計12隊で運用を開始することで、救助体制のさらなる強化を図りました。

しかし、住宅内事故が減少しているわけではありません。

グラフにもあるように、救助件数の増加とともに、住宅内事故発生件数も増加の一途をたどっています。

## おわりに

住宅内事故を防ぐには、大阪市消防局の重点目標にもある「予防救急」を広く市民の皆様伝えていくことが重要だと考えます。

また、隣近所とのおつきあいなど、地域コミュニティの確立が早期発見につながっています。

救命講習や住宅防火など市民の皆さんと直接お話する機会をとらえ、積極的に広報していただければと思います。

1件でも悲しい事故が減らせるように、1人でも助かる命を助けられるように。

想いを持った職員の活動は必ず市民の皆さんの心に届くはずですよ。

